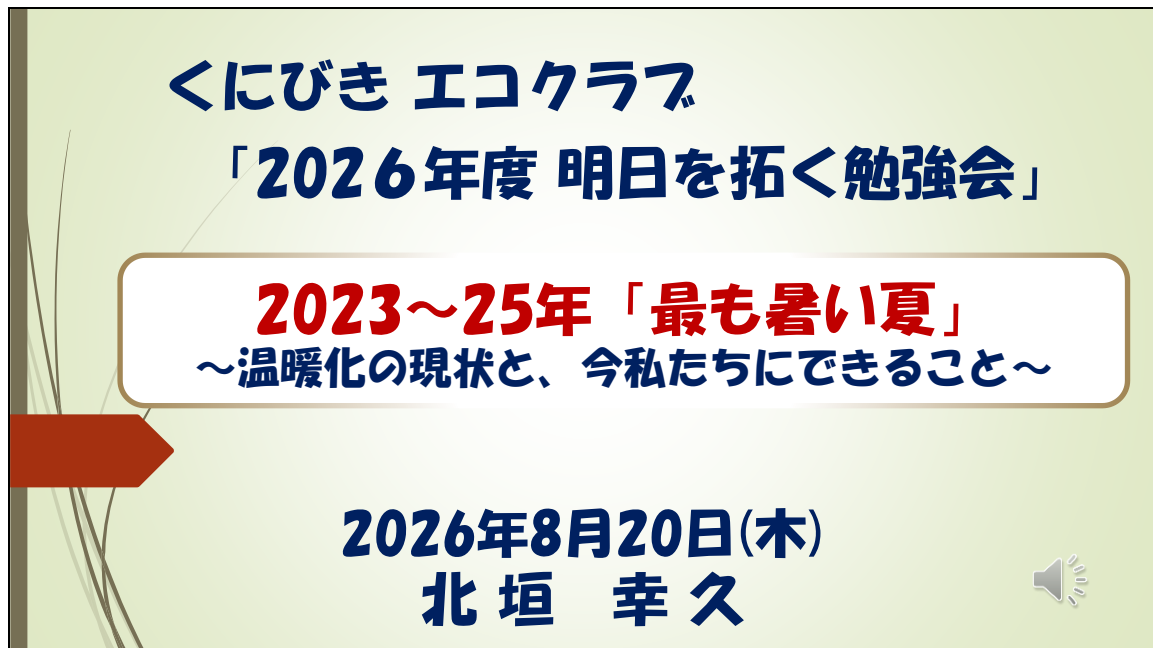




くにびき エコクラブ

「2026年度 明日を拓く勉強会」

2023～25年「最も暑い夏」
～温暖化の現状と、今私たちにできること～

2026年8月20日(木)
北垣 幸久

- ✓ 皆様、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。
- ✓ これから、「2023年から2025年『最も暑い夏』～温暖化の現状と、今、私たちにできること～」と題して、お話しさせていただきます。
- ✓ この夏も暑かったですね。
- ✓ この数年、「これまでに経験したことのない暑さ」という言葉を、毎年のように耳にするようになりました。
- ✓ 世界各地では猛暑や豪雨、干ばつなどの異常気象が相次ぎ、日本でも記録的な暑さが続いています。
- ✓ 地球温暖化は、もはや遠い国の出来事ではありません。私たちの暮らしや健康、そして地域社会にも大きな影響を及ぼし始めています。
- ✓ 本日は、地球、日本、そして私たちの住む山陰で何が起きているのかを、最新のデータをもとに見ていきます。
- ✓ そのうえで、温暖化の原因を減らす「緩和」と、暑さや気候変動から暮らしを守る「適応」という二つの視点から、私たちにできることを一緒に考えていきたいと思います。

**地球のためにあなたが出来る最初の
一歩は、この事実を知ることだ。**

アル・ゴア
アメリカ元副大統領



アル・ゴア氏は、クリントン政権で第45代アメリカ合衆国副大統領を務めた政治家であり、世界的な環境活動家。地球温暖化の危機を訴えたドキュメンタリー映画『不都合な真実』やノーベル平和賞受賞でも広く知られている。



- ✓ はじめに、地球温暖化の危機を世界に伝え続けてきた、アル・ゴア氏の言葉をご紹介します。
- ✓ アル・ゴア氏は、アメリカのクリントン政権で副大統領を務めた政治家であり、世界的な環境活動家としても知られています。
- ✓ ゴア氏は、著書『不都合な真実』の中で、次のように述べています。
- ✓ 「地球のために、あなたが出来る最初の一歩は、この事実を知ることだ。」
- ✓ 2006年に公開されたドキュメンタリー映画『不都合な真実』は、地球温暖化の実態を世界中の人々に伝え、大きな反響を呼びました。
- ✓ そして、その長年にわたる啓発活動が高く評価され、2007年には、気候変動に関する政府間パネル、IPCCとともに、ノーベル平和賞を受賞しています。
- ✓ 本日の勉強会も、まず事実を知ることから始めたいと思います。



(自動映像：68 Sec)

あれから地球はどうなったのか？映画『不都合な真実2 放置された地球』予告編
(2017.10.11)

<https://www.youtube.com/watch?v=YI9MFdwWzdU>

スライド 4



COP21 (第21回気候変動枠組条約締約国会議)
2015.11.30~2015.12.13
Conference of the Parties

- COP21(11月30日~12月13日、於:フランス・パリ)において、「パリ協定」(Paris Agreement)を採択。
- ✓ 「京都議定書」に代わる、**2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み**。
- ✓ 歴史上はじめて、**すべての国が参加する公平な合意**。

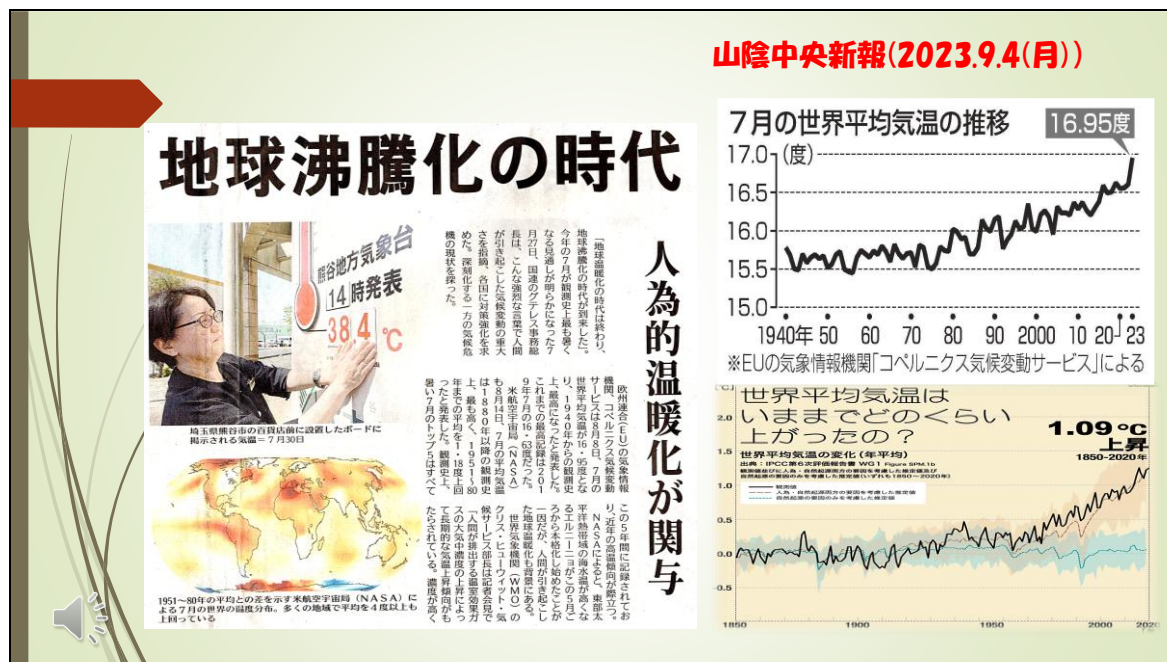


- ✓ 世界が一体となって温暖化対策に取り組む大きな転換点となったのが、2015年です。
- ✓ この年、フランス・パリで、COP21、第21回気候変動枠組条約締約国会議が開催されました。
- ✓ この会議で採択されたのが、パリ協定です。
- ✓ パリ協定は、それまでの京都議定書に代わる、2020年以降の新しい国際的な枠組みとして誕生しました。
- ✓ 特に大きな特徴は、先進国だけでなく、途上国を含むすべての国が参加する仕組みになったことです。
- ✓ 温暖化は一国だけでは解決できません。
- ✓ 世界全体が協力して取り組むための第一歩として、歴史的な合意となりました。

「パリ協定」の主な内容

- 世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べ2度より低く抑える
- さらに、気温上昇を1.5度までに抑える努力をする
- すべての国が、温室効果ガスの削減目標をつくる
- 世界全体の削減実施状況の検討を5年ごとに行う

- ✓ それでは、パリ協定で合意された主な内容を見てみましょう。
- ✓ 第一に、世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べて2度より十分低く抑えることです。
- ✓ 第二に、さらに高い目標として、気温上昇を1.5度以内に抑える努力を続けることです。
- ✓ 第三に、すべての国が温室効果ガスの削減目標を自ら定め、その実現に取り組むことです。
- ✓ そして第四に、その進み具合を5年ごとに確認し、必要な見直しを行うことです。
- ✓ それぞれの国には事情や立場の違いがあります。
- ✓ それでも、人類共通の課題である温暖化対策に向けて、世界が同じ方向を目指すことを確認した、大変意義のある合意でした。



- ✓ しかし、パリ協定から8年が経過した2023年、世界に衝撃を与える言葉が発せられました。
- ✓ それが、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」という表現です。
- ✓ 2023年7月、世界の気温が観測史上最高水準となる見通しが示された際、国連のグテーレス事務総長が、この強い言葉で危機感を訴えました。
- ✓ これは、人間活動による気候変動が、もはや無視できない段階に達していることへの警鐘でした。
- ✓ 私たちが今経験している猛暑は、単なる暑い夏ではなく、地球規模で進行している気候変動の表れであることを、改めて認識する必要があります。



(自動映像 1分35秒)

TBS Nスタ 2023.7.28(金)放映

国連事務総長「地球沸騰化の時代が来た」TBS-NEWS

<https://www.youtube.com/watch?v=3pyuMOO4Sao>

トランプ政権による気候変動関連の主な動き

- ◆ 「パリ協定」から脱退決定
- ◆ 国連気候変動枠組み条約からの離脱も表明
- ◆ 気候変動の知見に懐疑的な報告書公表
- ◆ 火力発電所の温室ガス規制撤回
- ◆ 研究機関を解体方針

EPA時事

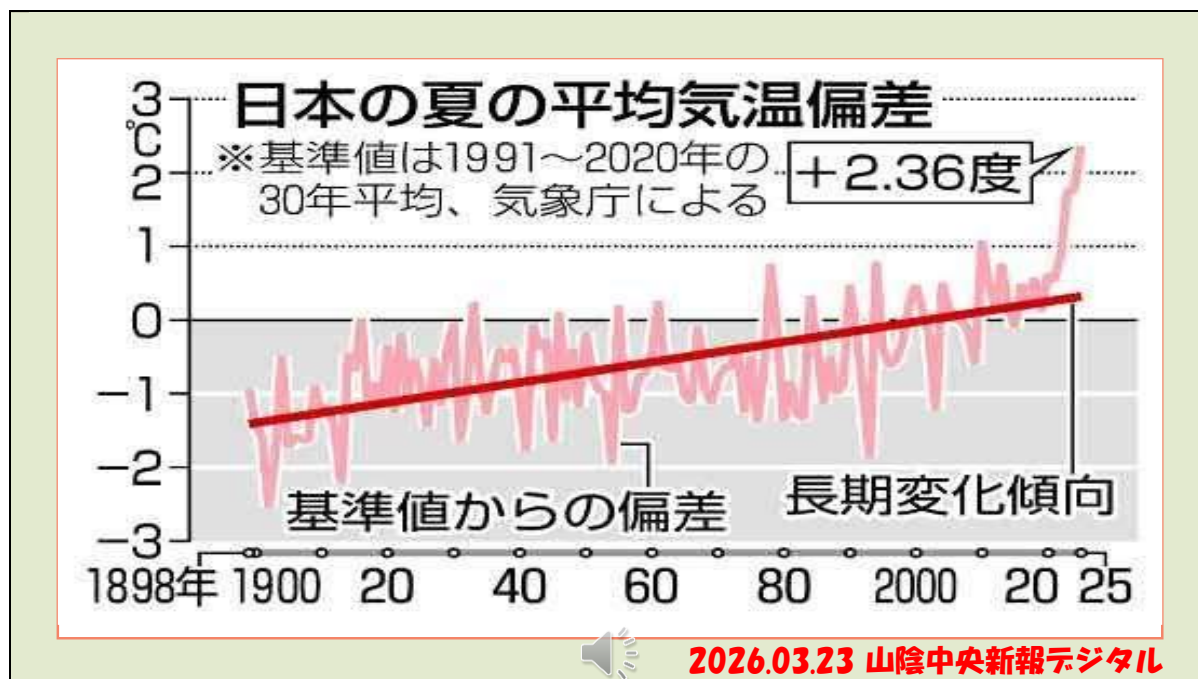


2026.01.17 時事ドットコム

- ✓ 世界が危機感を強める一方で、大変残念な出来事もありました。
- ✓ 温室効果ガスの排出量が世界第2位であるアメリカでは、トランプ政権が、2026年1月、地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」からの脱退を決定しました。
- ✓ さらに、その基盤となる国連の気候変動枠組条約からも離脱する方針を示し、世界の温暖化対策に大きな影響を与えることとなりました。
- ✓ もちろん、一国だけで世界の流れが決まるわけではありません。
- ✓ しかし、世界最大級の排出国の動向は、国際社会に与える影響が非常に大きいことも事実です。
- ✓ だからこそ、世界各国が協力し、歩みを止めることなく温暖化対策を進めていくことが、これまで以上に重要になっています。



- ✓ そのような状況の中でも、地球温暖化は確実に進行しています。
- ✓ 世界気象機関、WMOは、2026年3月、「2023年から2025年までの3年間で、観測史上最も暑い3年間となった」と発表しました。
- ✓ 大気中の二酸化炭素など、温室効果ガスの濃度は、依然として過去最高水準を更新しています。
- ✓ 2025年の世界平均気温は、産業革命前と比べて1.43度高くなりました。
- ✓ 単年では2024年が最も高い記録でしたが、この3年間で暑かったことから、温暖化が一時的な現象ではなく、長期的な傾向であることが分かります。
- ✓ さらに、地球に蓄えられた余分な熱の多くは海に吸収され、その結果、海水温や海洋貯熱量は過去最高を更新しています。
- ✓ また、海面水位も1993年以降、およそ11センチ上昇し、その上昇速度は年々速くなっています。
- ✓ 実は、目に見えない海の変化こそが、地球温暖化の深刻さを物語っていると言えるでしょう。



- ✓ このグラフをご覧ください。
- ✓ 2023年、2024年、そして2025年。
- ✓ 世界は3年連続で、「観測史上最も暑い夏」を更新しました。
- ✓ つまり、これまでの記録を毎年塗り替えるほど、気温の上昇が続いているということです。
- ✓ 「今年は特別暑かった」というレベルではありません。
- ✓ 毎年、「これまでで最も暑い夏」が続いているという、極めて深刻な状況なのです。
- ✓ この事実は、地球温暖化が着実に進み、私たちの暮らしにも大きな影響を及ぼしていることを示しています。
- ✓ 今や、「異常気象」という言葉では表しきれないほど、大きな気候の変化が起きていると言えるでしょう。



(自動映像：58sec) 2025.9.5

“ 数十年に一度レベルの「異常気象」” 気象庁 統計史上最も暑い夏となった今年（2025年）
| TBS NEWS DIG

<https://www.youtube.com/watch?v=WEGhZQii0bg>